

冬季の事故と防止対策について

冬季の北海道周辺海域は、低気圧の通過に伴い海上が荒天となり、これが原因で海難が多く発生しています。

天候急変による小型船の転覆・浸水

冬季は発達した低気圧などの影響により、天候が急変する場合があります。

出港前や航行中でも常に最新の気象情報を入手し、天候が悪化しそうであれば、出港中止や早期帰港の判断をしましょう。

係留不備による船体の流出・損傷

波や風の影響により、係留索が切れて船が流出したり、船が岸壁に打ちつけられ損傷することがあります。

定期的に係留索の点検を行い、磨耗が著しいものは交換しましょう。

また、天候悪化が予想される場合は、事前に係留索の本数を増やしたり、防舷物やすれあての設置、船の陸揚げなどの荒天準備を行いましょう。

錨泊中の貨物船による乗揚げ海難

過去には、荒天時に貨物船が走錨し、乗揚げの事故が発生しています。

錨泊するときは適切な錨地及び錨泊方法を選定しましょう。

また、錨泊後も走錨していないか継続的な位置の確認に努めましょう。



積雪による係留中の浸水・沈没

係留中の船舶の甲板上に雪が積もり、その重みで船が傾斜し、浸水や沈没の原因になる可能性があります。

船の見回りを定期的に行い、必要に応じて除雪を行いましょう。

また、スカッパー(排水口)が詰まると沈没の原因にもなりますので、定期的な清掃を行いましょう。

！入港後も点検・メンテナンスを行いましょう

冬になると船を長期間使用しない方もいると思われませんが、入港後の手入れを行わずに船を保管すると、燃料の劣化や船体、金属部分の錆付きなどを引き起こします。

次に船の使用するときのトラブルを防止するため、出港前に限らず、入港後の点検・メンテナンスも行いましょう。

お問い合わせは **第一管区海上保安本部交通部**

電話 0134-27-0118 (内線2615, 2616)

MICS (スマホサイト) <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/sp/index.html>



海難隻数及び海難による死者・
行方不明者数 (速報値)

10月	20隻、0人
平成27年累計	91隻、7人